



11月号

平成3年11月1日

発行 / 編集

岡崎市教育委員会

ピーピッ、ピッピッピッ

運動場に響きわたる指揮者の笛

鼓笛隊の練習が始まる

いつもの無邪気な笑いは消えている

背すじを伸ばし、

ほっぺたをふくらませ

まつかな顔でドリル演奏をする

トランペットクラブ

「愛は勝つ」のメロディーにのり

軽快にバトンを回すバトンクラブ

青空めがけ、思いっきりトス！

運動会が近づき

バトンを持つ手に、ぱちを持つ手に

力がこもる

四時二十分、鼓笛の練習が終わる
休む間もなく陸上部の練習へ駆け出す
走る後ろ姿が まぶしい
あしたも、がんばろうね！

(あしたもがんばろう)



(みどりの銀行 - 矢西小)

ここ二、三年前から大地の感触を味わうことに努めています。病気が契機で健康のために少しでもと歩くようにしているのです。ふと大地に立ち、眺めたり、しっかりと踏みしめたりしていると大地の何とも言えない心地よさが伝わってきます。湧き水のように噴出してくれる感じです。幼少期でしたら、ごく当たり前の自然でもあつた大地との生活に戻る機会を得て、最近の新しい、否、なつかしい楽し

時間がなかつたのです。久しぶりの大地との復縁は何か心を洗い流してくれる思ひがし、気分が良く、気持が落ち着ます。心が生き生きとして喜びや充実感が湧きます。何か大地の不思議な力、偉大な力、魅力を強く感じるのです。

平素、私は専門の障害児心理学を応用して、お座りや立つこと、歩くことの心理リハビリテーションの教育訓練を長年実施しています。障害が重く肢体が不自由な子どもも同様があります。

そこで訓練を通して目的の動作ができるようになると、単に動作だけよりも、むしろ精神的、人間に大きな変化が生じるのであります。これまでと一変して、みごとな成長・発達がみられるのです。表情や言動等が激変し、心が安定し、行動も落ち着き、生き生きとしてくるのです。

— 教育隨想 —

大地に思う

愛知教育大学教授

池田勝昭

この二、三年前から大地の感触を味わうことに努めています。病気が契機で健康のために少しでもと歩くようにしているのです。心地よさが伝わってきます。湧き水のように噴出してくれる感じです。幼少期でしたら、ごく当たり前の自然でもあつた大地との生活に戻る機会を得て、最近の新しい、否、なつかしい楽し

時間がなかつたのです。久しぶりの大地との復縁は何か心を洗い流してくれる思ひがし、気分が良く、気持が落ち着ます。心が生き生きとして喜びや充実感が湧きます。何か大地の不思議な力、偉大な力、魅力を強く感じるのです。

平素、私は専門の障害児心理学を応用して、お座りや立つこと、歩くことの心理リハビリテーションの教育訓練を長年実施しています。障害が重く肢体が不自由な子どもも同様があります。

そこで訓練を通して目的の動作ができるようになると、単に動作だけよりも、むしろ精神的、人間に大きな変化が生じるのであります。これまでと一変して、みごとな成長・発達がみられるのです。表情や言動等が激変し、心が安定し、行動も落ち着き、生き生きとしてくるのです。

普通何でもない、お座りや立つことの人間のもつとも基本的な動作が大地に対し適切に、きちんと対峙できるようになると、不思議にも何とも劇的な人間的変化を与えてくれるのであります。なぜか、私も全くわかりませんが、大地は人間のために、どうも何か予想もつかない、すばらしい力を秘めているのではないかと思えてならないのです。

昨今の物質文明の発展の中で、働き過ぎや忙し過ぎ、学校では受験勉強に追われるなど、大地や自然などと、ゆっくり、じっくりと接する余裕が少なくなっています。お座りや立つこと、歩くことなど特別に動作の不自由はない自閉的な、運動的な子どもたちにも同様に実践しています。お座りや立つこと、歩くことなどは、結局は大地に対して、いかに自分の身体を対峙できるかの問題であります。

文部省の発表によれば、平成二年度の学校嫌いは四万八千余名で、前年比二%の微増と全国的には歯止めがかかったようである。しかし、本市においては三十%の大幅増で、本年もその傾向にあるため、その解決が急務となっている。

さらに、登校拒否の起因は何かという問い合わせに対する市内小中学校の報告を集計すると、一位「家庭」の次に「学校」が二十二%を占めていることも見逃せない。しかも、学校での人間関係を解決しても、ほとんどが登校できないことから、病根は深く、学校の苦惱するところでもある。

そうした中で開催された市教研集会で、登校拒否対策に奔走する実践が五例も発表されたことはうれしいことである。なお

当日は、NHKテレビが「義務教育」（十一月放映予定）の取材を登校拒否についても行つた。こうした社会の教育への関心の高まりもあり、教師の使命は大であまりにも多忙な日々で大地との生活の

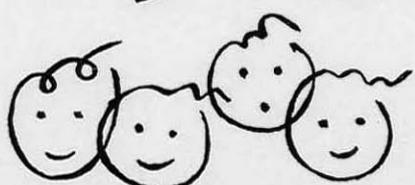
一人を大切にする

生徒指導指導員
金澤 強



ふるさとシリーズ

この人に聞く



絞り工芸家

土屋 勝暉 氏

絞りといえど、特に女性にとつては憧れの的である。あのふわっとした何ともいえない手触りの絹地に、一つ一つたんねんに絞られた風合いが何ともいえない温かみを持っているからであろう。

絞り専業としては、三河地方でただ一軒という土屋さんのお宅をお訪ねした。お父さんの代から始めたこの仕事を引き継がれ四十年近く、この道一筋に打ち込んでこられたという土屋さん。とても優しい表情で、いろいろな作品を目の前に広げながら話をしてくれた。今は着物だけにこだわって

いたはやつていけない時代だから、様々な絞り作品を考案されているとのこと。伝統工芸である絞り専業としてのご苦労をお尋ねした。

「四十年前には二千人ぐらいの絞り子さんがいたのに、今は二百人しかいないのですよ。それも平均年齢六十五歳ぐらいで。肩が凝る根気のいる仕事を内職としてする若い人はいないですねえ。もう十年もしたら絞りはなくなってしまうのではないかと、とても心配しています。鳴海や有松の人たちも同じ悩みを持っています」

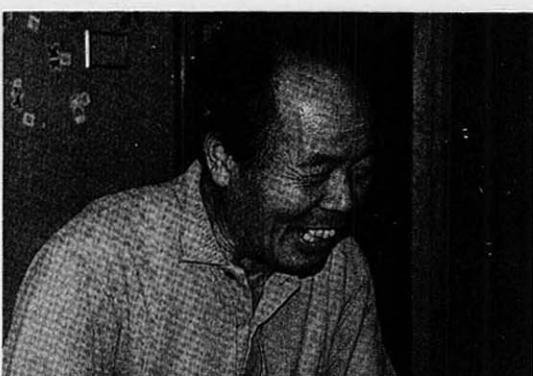
遠く万葉の時代にすでに衣服に用いられ、千数百年の長い伝統が受け継がれてきた絞り。機械化されている今でも、昔と同じ手法で絞り子さんが手にたこを作りながら、一つぶつずつ絞られるそうだ。

「今は中国や韓国製品に抑えられているのですよ。そんな中で、いかに絞り子さんを大事にして仕事を続けてもらうかということに一番気を遣っています」

デパートに出向き絞り作品の売れ行きを調べたり、いろいろな人に好みを聞いたりと、流行を取り入れるために常に努力をされているともお聞きした。見せていただいた作品の中には、財布、眼鏡ケース、ポーチ等もあり、それらは、現代的感覚の中に絞りが生かされた素晴らしいものであった。

「絞りは手間をかけて作つても、それが絶対売れるかどうかわかりません。それに、一つの作品に何人かの手がかか

（氏名）
（生年月日）昭和九年十一月二十四日
（住）所岡崎市中園町忠田四十三の二



つっているので、伝統工芸といつても誰

の作が名前を入れることができにくいのも悩みですね。でも、苦労してアイデアを考えた作品が完成し、注文がたくさんきた時は本当にうれしいですよ。六月に有松で開かれる絞り祭りに、毎年意欲的な作品を出品されるとか。

愛知県絞り工業組合の理事を十一年も務められ、ひたすら伝統産業を守り育てることに力を注いでみえた土屋さん。

一つぶつぶ手で絞ったところを見てほしい、一つ一つ图案から考えて作り上げる絞りを伝統工芸品としてみてほしいと、熱っぽく語られた。

（B）先生のほんとどが、学級通信や

学年通信 黒板日記等で生徒との交流を

図っている。生徒の病欠連絡には、すぐ

に担任が家庭訪問する。できなければ、

部活顧問や旧担任・空きの教員がでかけ、登校拒否生徒激減に成果をあげている。

B中の職員の一人だという自覚が、苦労

の多い地味な実践の推進力となつていて、

集会後にF先生が、「学校で生徒がマン

ガを読んでいたので強く指導した」と話

し出した。「すぐに『すみませんでした』

と謝りに来たが心配で、会場に来る前に

もう一度学校に戻つてみた」と言う。

F先生のいるD中生徒は幸せだと思った。

さらに「学校に帰つたら黒板に私の気持ちを書いてきます」と席を立つ先生に感謝するばかりである。

家庭と学校の温かさが同一になつたと

感じてくれる。

K子は小二からの登校拒否児である。

小三の新担任の「今度の担任の先生は女の先生だよ」という第一声の関係づくりや、母親が決意した生活のやり直しに教師がどうかかわっていくかなど、教師のできる支援の方法が参加者に注目された。

A女教師の実践は中学校三年間と長期

である。O子を生かそうと援助する教師

の姿と、次第に自分に自信を持つていく

彼女の姿が重なり、二人三脚の教育の大

切きを知らされた。一時は死にたいとも

考えたO子に希望をもたせたのである。

B中の先生のほとんどが、学級通信や

学年通信 黒板日記等で生徒との交流を

図っている。生徒の病欠連絡には、すぐ

に担任が家庭訪問する。できなければ、

部活顧問や旧担任・空きの教員がでかけ、登校拒否生徒激減に成果をあげている。

B中の職員の一人だという自覚が、苦労

の多い地味な実践の推進力となつていて、

集会後にF先生が、「学校で生徒がマン

ガを読んでいたので強く指導した」と話

し出した。「すぐに『すみませんでした』

と謝りに来たが心配で、会場に来る前に

もう一度学校に戻つてみた」と言う。

F先生のいるD中生徒は幸せだと思った。

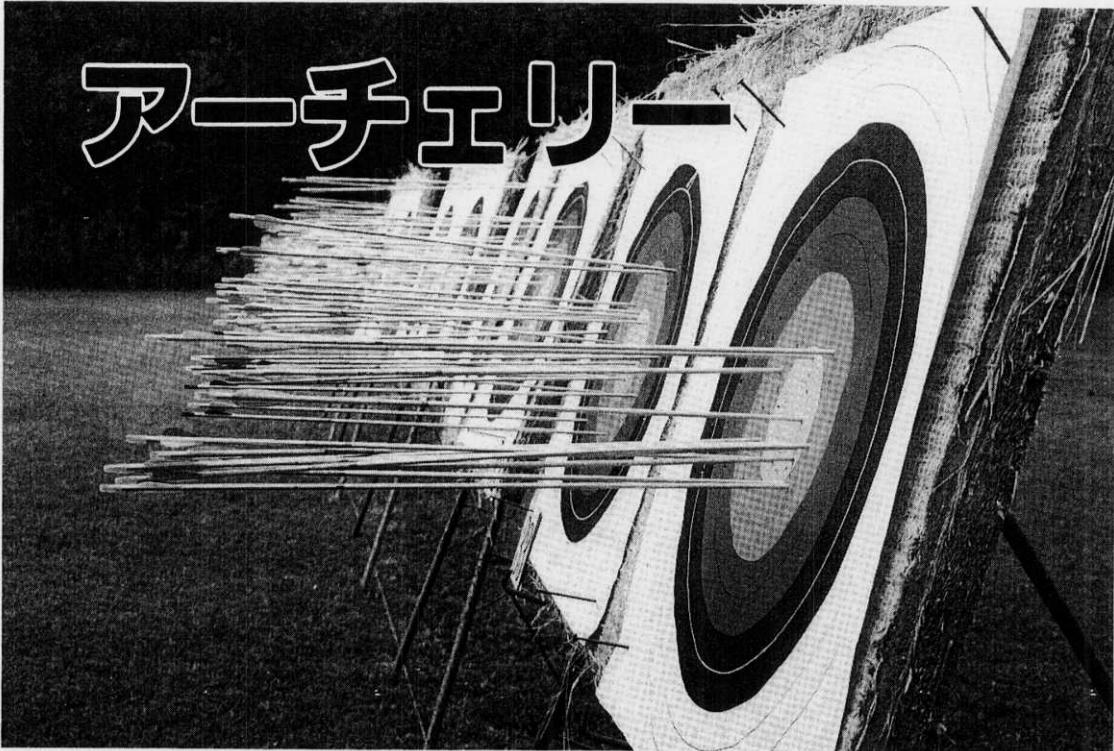
さらに「学校に帰つたら黒板に私の気持ちを書いてきます」と席を立つ先生に感謝するばかりである。

家庭と学校の温かさが同一になつたと

感じてくれる。

(3)

アーチェリー



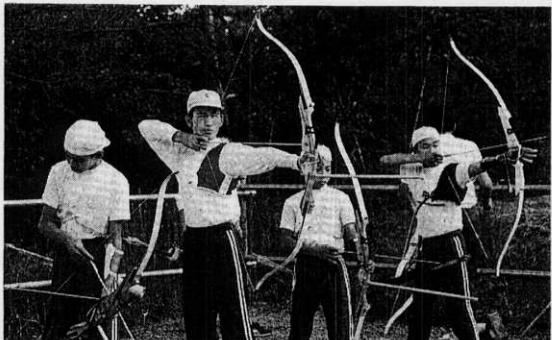
平成六年、第四十九回国民体育大会が愛知県で開催される。岡崎では、バスケットボール（少年男子）、空手とともに、この岡崎中央公園を会場にしてアーチェリーが実施されることになっている。

日本では、昔から「和弓」が盛んであった。アーチェリー（洋弓）が本格的に行われるようになつたのは、戦後ということで、まだその歴史は浅い。最近、アーチェリーが新しいスポーツとして急速に発展してきたのは、あらゆる年齢層の人が楽しめるという点にある。身体障害者も何らのハンディキャップなしに競技することができる唯一のスポーツである。

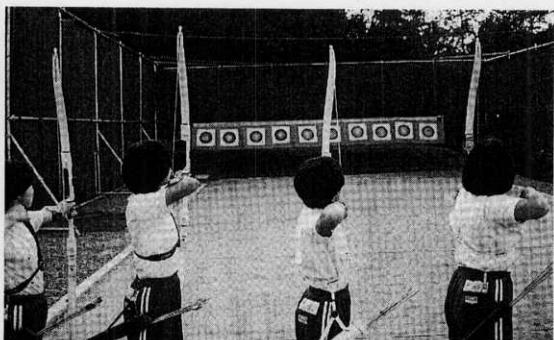
現在、世界では欧米を中心に行われており、世界選手権大会が二年ごとに、また一九七一年のミュンヘンオリンピックからは五十二年ぶりに再度正式種目になつている。

国内においては、昭和五十五年の国体から正式種目として認められ、こうした大きな大会が各地で催されるようになり、その輪は大きく広がりつつある。老若男女を問わず、誰にでも気軽に楽しめるアーチェリーは、私たちの生活により身近なものになつてきている。

本市でも、市のアーチェリー協会に所属している者は現在五十名ほどおり、アーチェリーカー教室等で練習をしている者は六十名を越えているという。また、東海中学校には、この春、愛知県では一番目のアーチェリー部ができ、立派なアーチェリー場も完成した。現在三十余名の部員が国体を目指して頑張つていている。高校では、岡崎東高校に市内唯一のクラブがある。



▲練習に励む東海中の部員たち



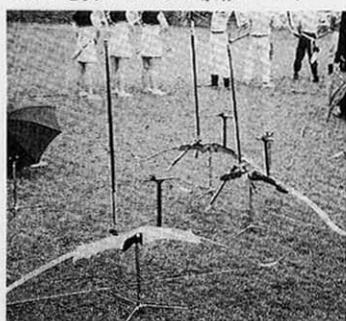
▲学校裏山の造成地に作られた東海中アーチェリー場

▼身障者の方も車椅子で参加

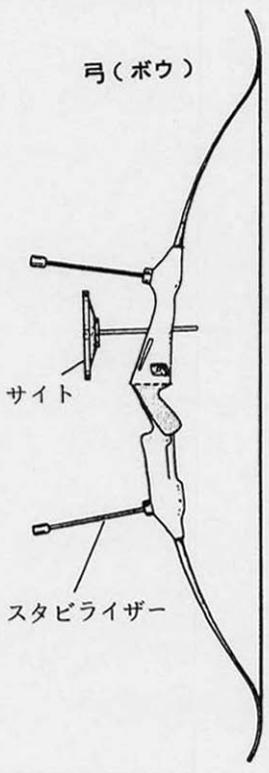


▲的にねらいを定める選手たち（秋季市民大会 県営グランドアーチェリー場）

▼ボウを支えるための専用スタンド



▼各選手がそれぞれ自分の得点を集計



ボウ 弓全体のこと。現在は薄めの細長い合板とカーボンファイバー、グラスファイバーなどが使われている。

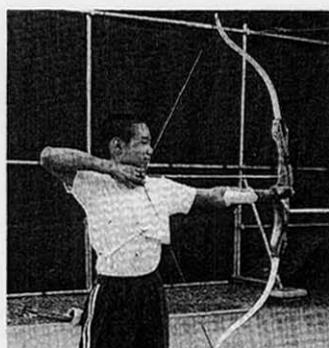
サイト 標準器。距離により、上下・左右に調節する。

スタビライザー 矢を発射する際に生じるショックの吸収や弓の回転を止めるもの。

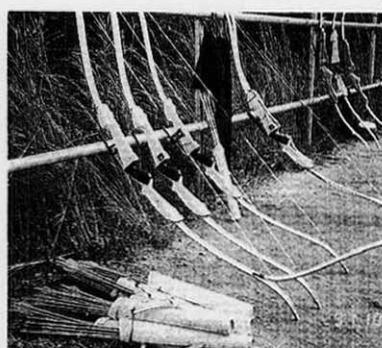
アロー 矢のこと。アルミニウム合金製のものを使用している。

クィーバー アローを入れて腰に下げる筒のこと。予備のアローや小物類を入れておく。

ターゲット 標的のこと。五色に区切られており、十段階の点数が分けられている。



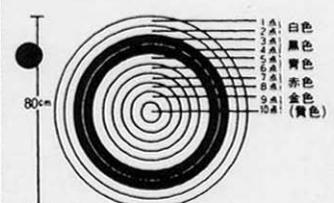
▲基本の射型



▲アーチェリー用具一式

〔標的〕

的は直径80cmで、中心の直径8cmの円内に矢がさされれば満点の10点





生きものの大好き

上地小 松坂 稲文

「やつた。晴れたぞ。」

雨上がりの一日。生き物の好きなH君の言葉である。この日は上地湿原に生き物の調査に行くことになっていたのだ。

わが学区には上地八景と呼ぶ名所があり、その中には、自然に親しめるところがある。上地湿原もその中のひとつだ。しかし、名前を知っていても行つたことのある子はほとんどいなかつた。そんな時「学校だより」を読んで、行ってみたいということになつたのだ。生き物のとても好きな子たちである。三年生の時は、「きせつ

の生きもの」で大谷公園の生きものを調べてきた。

秋の七草探しでは、ハギを見つけ、図鑑と一生懸命見比べているY君。虫探しでは、ミツカドコオロギの顔を見て、顔に三つのかどがあるから、ミツカドコオロギか」と、納得するT君。

「先生、先生。このショウウリヨウバッタモドキ、家で飼つてもいいですか。」

H君。みんなが知らなかつた虫を見ついたことがうれしかつたのだろう。

しかし、そんな子たちでも、虫を飼うとなるとなかなか上手に世話ができなかつた。また、水槽の水換えもしつかりできない状態で三年生を終えた。

そして、四年生になつての初めてのイベントだ。

「水に入つた時、気持ちよかったです。アメンボのたいぐんもいました。人が通ると横によけます。人間を親分だと思つているのかなと思いました。

「紙ください。」
「先生、はがきを作るので画用紙ください。」
「えつ、きのうはまだたくさんあつたのに、どうしたの?」
「ぼくたち放課の間も作つとつたもんで、もうなくなつちゃつたんだ。」

ぼくらの 子ども郵便局

男川小 松崎 敬子



KさんとMさんは捕まえたメダカを飼育し、ふ化まで観察することができた。そして水槽を持って外へ飛び出すS君が、水が汚れていることも少なくなってきたのである。

今では、学校の飼育当番にも校内一番多く参加している。生き物に興味を持ち、そして優しくする。そんな心の温かい子になつてきたことをとてもうれしく感じている。

開き、中から二枚ほど手渡すと、S君はにこっとほほえみ、すぐにおこるところへ戻つて行つた。また作り始めているようである。「ぼくたちの力で、子ども郵便局を開きたい。」

二学期の初め、二年生の子どもたちのだれもが、この強い気持ちは持つたのである。そして今、子どもたちは、すでに準備段階に入つていて。

集め、配り、窓口、区分け、スタンプといった五つのグループができ、グループごとに分かれ準備に入つて翌日のことである。

「えつもう。次もやりたいよ。」

一時間終わつて見ると、あの

画用紙の山は、いつのまにか半

分に減つてしまつていた。

「えつもう。次もやりたいよ。」

一時間終わつて見ると、あの

画用紙の山は、いつのまにか半

分に減つてしまつていた。

「えつもう。次もやりたいよ。」

一時間終わつて見ると、あの

画用紙の山は、いつのまにか半

分に減つてしまつていた。

簡単だよ。郵便番号のところは、切り抜いてあるから、紙の上にこれを書いて線を引くだけだよ。」

家で、葉書の型紙や封筒の展開図を作つてきたA君。自慢げな表情で話しかけてくる。

どの子もこの時間が待ちきれず、家で準備したり、作つてきてしまつたのである。

その子たちの手助けもあってか、授業開始と同時に、私の説明など必要とせず、夢中になつて作り出す子どもたち。

終了のチャイムが鳴ると同時に、その子たちの手助けもあって



岡崎市教育委員会は、十日より、深田三太夫教育委員長の任期満了にともない、後任に太田清美氏を選び、次の陣容で発足した。

文部大臣賞に輝く

平成二年全国自作視聴覚教材・郷土学習教材コンクールにおいて、本市視聴覚ライブラリーと現職教育委員会理科教科部が共同制作したビデオ作品「松くい虫を追つて」が中学校部門の最優秀賞である文部大臣賞を獲得した。

表彰式は十二月四日、東京の国立教育会館で行われる。

また、同時に応募した「肉牛を育てる」(視聴覚ライブラリー・現職教育社会科部共同制作)も入選を果たした。

また、同時に応募した「肉牛を育てる」(視聴覚ライブラリー・現職教育社会科部共同制作)

平成二年全日本自作視聴覚教材・郷土学習教材コンクールにおいて、本市視聴覚ライブラリーと現職教育委員会理科教科部が共同制作したビデオ作品「松くい虫を追つて」が中学校部門の最優秀賞である文部大臣賞を獲得した。

自作ビデオ作品「松くい虫を追つて」

お知らせ



■教育委員長に太田清美氏

岡崎市教育委員会は、十日より、深田三太夫教育委員長の任期満了にともない、後任に太田清美氏を選び、次の陣容で発足した。

教育委員長 太田 清美
委員長職務代理 築瀬 正邦
教育委員 深田三太夫
内藤美智子

■健康優良児童生徒

平成二年度の岡崎市健康優良児童生徒の審査が九月十二日、福岡小学校体育館であり、計二十人が優秀賞に選ばれた。昨年度では、小中学生とも岡崎一と準岡崎一が選ばれていたが、健康状態が年々平均化してきたため、今年度から小中学生とも男女各五人に優秀賞が贈られるようになった。

審査の結果、優秀賞は次の通り。

○小学校

・大山 祐人	・間宮 豊	・島 小
・伊神 沙紀	・加藤 友里	・岩津 小
・稻垣 太朗	・渡邊 真人	・大樹寺 小
・六ツ美 北部小	・酒井 朋子	・福岡 小
・大山 祐人	・小栗 明子	・岩津 小
・伊神 沙紀	・加藤 友里	・岩津 小
・稻垣 太朗	・渡邊 真人	・大樹寺 小
・六ツ美 北部小	・酒井 朋子	・福岡 小
・大山 祐人	・小栗 明子	・岩津 小
・伊神 沙紀	・加藤 友里	・岩津 小
・稻垣 太朗	・渡邊 真人	・大樹寺 小
・六ツ美 北部小	・酒井 朋子	・福岡 小
・大山 祐人	・小栗 明子	・岩津 小
・伊神 沙紀	・加藤 友里	・岩津 小
・稻垣 太朗	・渡邊 真人	・大樹寺 小
・六ツ美 北部小	・酒井 朋子	・福岡 小

■金・銀ともに本市で独占の快挙

第35回愛知県統計グラフコンクール

・第1部(小学校1年~3年)

金賞	守山 雄太 (三島2年)	田中 克典 (三島3年)
	児島浩太郎 (三島3年)	川添 秀和 (三島3年)
銀賞	真野 孝二 (上地3年)	
	鳴田 圭佑 (三島1年)	太田 好乃 (三島2年)
銅賞	鈴木 哲司 (上地1年)	別所 猛 (上地3年)
	山田 充介 (三島3年)	市川 智英 (上地2年)
	望月 愛 (上地3年)	白井 陽子 (上地2年)
	戸松千恵美 (上地2年)	

・第2部(小学校4年~6年)

金賞	黒柳 晶子 (広幡6年)	稲葉ゆかり他2名(井田6年)
	太田 聖子 (福岡5年)	山崎 考晃 (大門6年)
銀賞	遠藤 陽子他1名(上地6年)	
	岡本 宏子 (広幡6年)	高橋美恵子 (井田6年)
銅賞	小川 恵子他1名(岩津6年)	池田 充他1名(上地4年)
	中嶋ひろ子他1名(上地6年)	
	仲 真澄 (三島5年)	児島 紀子 (三島5年)
	中根 千寿他1名(三島5年)	高妻 審史 (上地5年)

・第3部(中学校)

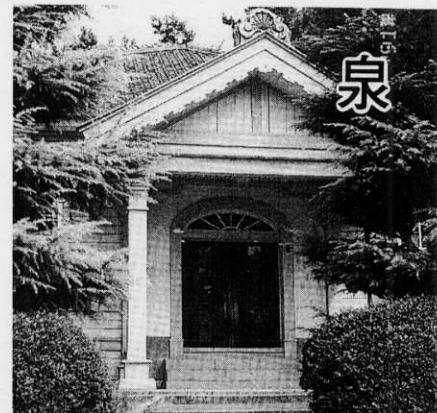
金賞	長野 一郎 (竜海2年)	市川 和世 (葵1年)
	清水 弥生他1名(岩津3年)	高柳 智美他1名(葵3年)
銀賞	岩瀬 直子他1名(城北1年)	近藤 祐子 (城北2年)
	内田理恵子 (岩津2年)	椎谷 友美他1名(岩津3年)
銅賞	内田 敏明 (美川1年)	近藤 春奈 (城北2年)
	上村 一孝 (矢作1年)	山崎 将裕 (北2年)

サッカー(男)、軟式野球(男)、ソフトボール(女)の結果は次号でお知らせします。

・表紙写真
・カット

矢西小
新香山中

市川直昭
神谷明美
村田俊広



日清紡針崎工場

岡中の講堂

明治二十年代後半、尋常中学校への志願者が次第に増加し、一県一中学校制の原則が廃止されて、愛知県の三河部で增设運動が起きた。その結果生まれたのが、愛知県第二尋常中学校である。

最初は、針崎の勝鬘寺を仮校舎にして、明治二十九年に開校した。翌三十年、戸崎（現在の中部電力岡崎支社）に新校舎が落成し移転している。大正十一年には校名も「愛知県岡崎中学」校門に入つて右手に、写真的「校」と改称された。

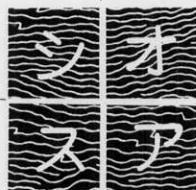
ような講堂があつた。六百名余りの生徒が入るには、やや狭かつたようだが、ここでは、卒業式をはじめ、様々な式が行われた。挙式には校長の訓話を聞いた。入学式では新入生が上級生の「君が代」のど太い声に驚いて縮み上がつたりしたといふことである。また、英語の弁論大会などの行事も行われ、この狭い講堂中に熱弁が響き渡つた。現在、講堂はそのままの姿で日清紡工場（針崎）にあるが、明治村、または、岡崎高校へ移築しようという声もある。

落ち葉のふとんで寝たり、どんな遊びを作ったり——こんな遊びを知つてゐる子どもがどれだけいるだろう。部屋の中で、テレビゲームにかじりつき、塾や習い事で忙しい子どもたち。自然の中でも、伸び伸びと動き回るわが子の姿に、「遊び」の役割を痛感する。

シマフクロウという黄色の目をした大きなフクロウがいる。

日本では、北海道の原生林に棲息し、アイヌ語で「コタンクルカムイ」（村を守る神）と呼ばれ、あがめられてきたそうだ。

一度いいから、この大きな鳥に出会つてみたいものだ。



秋雨前線に振り回された九、十月。校庭に飾られた万国旗からしたたり落ちる滴の何と恨めしかつたこと。十一月も多くの行事が予定されている。自然の成すべきままに任せることなく天候とは言え、もし、また雨に降られることがあれば、もうだれかのせいにしなくては居られない。

鈴なりになつた柿の実が、澄みきつた秋空にひときわ鮮やかに映えている。子供の頃、何よりのおやつで、よく熟れた柿をもぎ取り食べたものであつた。近頃では熟した柿が取り手の無いままいつまでも木にぶら下がっているのを見かける。柿は、おやつから遠ざかってしまつてゐるのであるうか。



*生と死の心模様	大原健士郎
岩波新書	¥ 550
*母に捧げるバラード	武田 鉄矢
集英社	¥1200
*こころの天気図	河合 隼雄
毎日新聞社	¥1350
*たくましい人間教育を	梶田 叙一
金子書房	¥1236

※独創教育が日本を救う
日本式「暗記偏重」教育への直訴
P H P研究所

西沢 潤一
¥1300

日本は「モノ真似」技術によって成功を収めていたと言われている。それらの先行指標が無くなりつつある今、21世紀を生き抜くために、日本、日本人はいかにすべきか。

半導体、光通信分野の研究・開発で文化勲章等、数々の賞を受けている著者が教育者として、学者として、独創的な人間育成のための根本問題を提言する。

今、教育改革の時。これまでの日本の教育観・学力観の見直しと、発想の転換を図るために明快な指針を与えられる。